

令和元年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価の結果及び改善へ向けての方策について

南アルプス市立若草小学校
校長 河西 美代司

爽秋の候 保護者の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育に対しましてご理解とご協力を頂きありがとうございます。

さて、6月に行った学校評価について得られた結果及び改善へ向けての方策について報告いたします。

1 本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

2 本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。
- (7) 学校・保護者・地域の絆で「若草みまもりたい」を推進する。

3 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は、

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）○「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価） |
|--|

4 改善へむけて

アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、学校施設等の一部例外があるものの、多くの項目で肯定的評価が否定的評価を大きく上回っている。今後も改善・推進を図りながら、日常行われている教育活動を継続していくことが大切である。

今回のアンケート結果を踏まえ、今後さらに重点的に取り組むべきことを以下にまとめた。

【学校生活について】

- 児童の抱える困難さや不安に寄り添い（生活アンケート・ＱＵ検査等を使いながら）、より良い人間関係が構築できるように、安心できる学校を目指して職員一丸となって取り組む。スクールカウンセラーも活用し、個に寄り添った丁寧な教育相談を行う。
- 児童会の取組など、積極的に情報を発信し、児童の頑張りを保護者に知らせていく。

【学習について】

- 新学習指導要領の施行に向けて、「思考力・判断力・表現力」を高める授業づくりを行う。教師や友だちの話を「聴く」ことを大切にし、授業中の発言を増やす。校内研究と合わせ、学級・学年・低・中・高のブロックで連携した系統的な取組を進める。安心して発表できる学級の雰囲気をつくることは、お互いを認め合うことにもつながり、いじめのない学級づくりにも通じている。「学び合い」を大切にした校内研究のテーマをこれからも継続していく。合わせて特別支援教育（ユニバーサルデザイン）の授業づくりにも取り組む。
- 基礎基本の定着を図るためにも学習規律を身に着けさせたい。家庭の理解と協力を得ながら落ち着いた学習に向かえる環境を整えていく。

【家庭学習について】

- 学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。県から出ている家庭学習のパンフレット（家庭学習のすすめ）等利用したり、家庭学習推進期間の設定回数や内容を見直したりして、家庭学習を保護者の理解と協力のもとに推進していく。

【生徒指導について】

- いじめや非行行動に対する未然防止や早期発見について、多くの目で確認できるような組織の充実も必要である。学校は、いじめはどの学校でも起こりうることを前提にしながら、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。
- 防犯やあいさつを目的とした「わかくさみまもりたい」は自治会に協力を要請し、PTA活動でも取り組みながら、その成果が出てきており、今後も継続していく。児童会・若草中・PTA・地域の方々とも協力し合いながら、あいさつ運動・見守り活動を工夫し今後も推進していく。

【学校経営について】

- 「報告・連絡・相談・確認」を確実にやり、全職員共通理解のもと教育活動に取り組んでいく。
- 校務分掌等の負担軽減を図るため企画運営委員会等を行い方策を見出していく。

【学校行事について】

- 児童会行事の多さが昨年に引き続きだされていることから、年間の学校行事も含め検討委員会等を立ち上げて具体的にどのような取捨選択ができるのか検討していく必要がある。

【校内研究について】

- 「聴き方」「話し方」、授業スタイルなどが示され、共通理解のもと研究が進んでいる。さらに研究を進めていく中で、本校のスタイルや研究論点が明確になっていき、授業改善や学力向上につながるものとする。

【施設・設備について】

- 校舎の老朽化が進んでいて、まだまだ修繕の必要な個所多い。長期的に対応を考えるもの、緊急性があるもの等、予算と相談しながら（要求しながら）これからも、児童が安全・安心して学校生活を送れる施設・設備を整えたい。
- 必要な備品や消耗品については計画的に予算化していく。

【家庭との連携について】

- 保護者が相談してくるときは、信頼し期待しているからであることを念頭に置き、丁寧に対応し連携を深めていく。

【携帯電話について】

- ルール作りが家庭で進んでいないことから、親子で話し合う場面が生まれるような取り組みを行い適切な使用ができるようルール作りを推進していく。
- 専門的知識を持った外部講師を活用するなど、親子で学習できる場を設定し意識を高めていく。